

令和元年度 各学部・研究科等自己点検評価結果 集計表

分析項目		検証		教育学部・教育学研究科	地域科学部・地域科学研究科	医学系研究科・医学部		工学部・工学研究科	応用生物科学部	自然科学技術研究科	共同獣医学研究科	連合農学研究科	連合獣医学研究科	連合創薬医療情報研究科	全学共通教育	
番号	内容	番号	内容			医学科・医科学専攻	看護学科・看護学専攻									
2-3-1	学部研究科において、内部質保証の取組(PDCA-Cycle)が行われていること	検証1	情報を収集し分析した事例はあるか(C, A)? ○:ある ×:ない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2-3-2		検証2	実施計画を立てた事例はあるか(P)? ○:ある ×:ない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
2-3-3		検証3	改善につながった事例はあるか(D)? ○:ある ×:ない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2-5-4	授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を組織的に実施していること	検証1	FD等を実施しているか? ○:実施した ×:実施していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
		検証2	FD等の実施が授業内容及び方法の改善につながっているか? ○:改善事例がある -:明確な改善事例は把握していない	○	-	○	○	-	○	-	○	○	-	-	-	○
5-2-2	学生の受入が適切に行われていること	検証1	入学者の基礎学力が昨年度に比較して同等あるいは向上しているか? 学部の場合、基礎学力には教学IR室が提供するセンター試験の得点率も参考にすること。 ○:はい ×:いいえ	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-
		検証2	検証に基づいて入学者選抜の変更を検討(実施も含む)しているか? ○:検討している -:検討していない、変更しないことを決定した	○	-	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-
5-3-1	実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと	検証1	学部では100%≦実入学者数/入学定員≦110%(105%)となっているか? ○:はい ×:いいえ	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
		検証2	研究科では70%≦実入学者数/入学定員≦130% となっているか? ○:はい ×:いいえ	○	○	×	○	○	-	○	○	○	-	○	-	-
6-3-2	授業科目の内容及び、授与する学位に相応しい水準となっていること	検証1	シラバスを点検したか? ○:点検した ×:点検していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		検証2	シラバスに「到達すべき目標」が箇条書きで記載されている授業科目の割合(記載率)は? 記載率(100%)=記載されている科目の総数/授業科目の総数	96.0%	86.5%(※2)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%(※3)	85.0%	99.7%	○
		検証3	記載率を高める取組を実施し、改善が図られたか? ○:改善されている △:取り組んでいるが改善にはつながっていない ×:取り組んでいない	○	△	○	○	○	○	○	○	○	×	-	○	○
6-6-3	成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	検証1	シラバスに記載されている「到達すべき目標」に照らして成績評価を行うことを組織的に確認しているか? ○:確認している ×:確認していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
		検証2	成績評価を厳格にする取組を実施しているか? ○:実施している ×:実施していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6-8-1	標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	検証1 検証2	学部・研究科の標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等を把握し、適正な状況にあることを確認しているか? ○:適正な状況である ×:適正な状況ではない	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	-
6-8-2	就職(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学(進学)の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	検証1	本学統一の書式又は独自の書式によって就職状況や進学状況を分析したか? ○:実施した ×:実施していない	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	-
		検証2	分析によって大学等の目的及び学位授与方針に則して妥当なものであること等を確認しているか? ○:確認している ×:確認していない	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○
6-8-3	卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	検証1	卒業(修了)時の学生から意見聴取を行っているか? ○:行っている ×:行っていない	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	-
		検証2	学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査等、意見聴取を行い、学習成果が上がっていることが確認できたか? ○:確認している ×:確認していない	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○

<補足説明>

※1:医学系研究科医科学専攻の平成31年度の定員充足率は68%であり、平成29年度より秋季入学を導入したことにより改善しつつある。

※3:平成30年4月受け入れを最後に募集を停止しているため新たに到達目標を設定していない。

※2:「到達すべき目標」の記載率は100%であるが箇条書きになっていないと判断されるものが13.5%あった。

令和元年度 各学部・研究科等自己点検評価結果 集計表

<具体的な取り組み例(各部署の取り組みを抜粋)>

番号	内容	部局名	取り組み
2-3-1	学部研究科において、内部質保証の取組(PDCA-Cycle)が行われていること	教育学部	一般選抜における後期日程廃止・前期日程面接導入は2021年度入試から開始のため、その成果は今後検証する。一方、2019年度入試から実施している「ぎふ清流入試(センター試験を課す推薦入試)」入学生については、教学IRデータに基づく分析では、2019年度入学時教職希望者88%であり、前期・後期日程入学者と比較し、極めて高い水準にある。
2-3-2		医学部医学科	上記「検証1」各項目の分析に基づき改善を検討した結果、①及び④では教員、学生双方の視点から現行の医学教育カリキュラムの課題を明らかに、チューリリアル教育の見直しと新たなアクティブラーニングの導入、②については入試改革(後期シフトを見直し、各入試区分の募集定員を令和2年度入試から変更)、③については国家試験合格に寄与する卒業試験の実施スケジュールの変更へとつながった。
2-3-3		工学部	技術表現法において、話し合いの進め方・方法論について、話し合いを行う理由及び目的の理解が進むよう教材を改善し、その効果を授業評価アンケートで確認することができた。
		全学共通教育	毎年、前期・後期の2回、授業満足度、良かった点、どうすればもっと良くなるか等、授業ごとに授業評価アンケートを行っている。アンケート結果は教養教育の会議で確認を行うと共に、各授業担当教員へもフィードバックを行っている。また、「全学共通教育科目の成績分布」では、授業ごとの段階別評価のバラつきや、偏りについても確認を行っている。
2-5-4	授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を組織的に実施していること	応用生物科学部	FDの内容を踏まえ、令和2年度の教学委員会で「学習意欲低下学生の早期発見と支援内容の検討」を行うこととなった。また、令和2年度の初年次セミナー(1年生対象)の内容に「折れない心の育て方」に関する講義を含めることとなった。
5-2-2	学生の受入が適切に行われていること	医学部医学科	医学教育IR室の分析結果を踏まえ、医学科入学試験委員会及び教授会議で協議を重ね、各入試区分の募集定員を令和2年度入試から変更した。(推薦Ⅱ(一般)15人→20人、前期32人→37人、後期35人→25人)
		自然科学技術研究科	Advanced Global Program において、協定大学から優れた学生を受け入れている。
		共同獣医学研究科	本研究科では昨年度より「大学院進学促進ワーキンググループ」を結成し、現状の分析及び今後の対応について検討を行っている。学部学生の進学を促すための方策として、研究に興味のある学生については低学年から研究室への訪問・見学を促したり、学部-大学院接続プログラムの設定を検討している。また、社会人学生の更なる入学促進を促すため、近隣県(岐阜県、愛知県、三重県)の県庁における畜産関連研究所勤務獣医師、および獣医師会所属の臨床獣医師に対して、大学院の説明会を実施している。
6-3-2	授業科目の内容及、授与する学位に相応しい水準となっていること	地域科学部	来年度開講されるすべての授業について、教務厚生委員会において点検した。学部の授業については、問題のあるシラバスについては、当該部分を示し、担当教員に返却し、シラバスの修正を依頼した。
		連合創薬医療情報研究科	教務厚生委員会において、点検項目や重要記載事項等を確認したうえで、各教員へ一斉点検をお願いした。アクティブラーニングに記載のない科目17件、基盤的能力・専門的能力について記載のない科目5件確認された。記載事例を示したうえで、点検・修正を依頼した結果、重要記載項目についての記載率が改善した。
		全学共通教育	全学共通教育の各部長による分野ごとの点検を行い、シラバスの記載漏れを指摘し各項目の記載率を高めるとともに、新入生に“授業のねらい”がわかりやすいかという視点でも必要に応じて修正を行っている。
6-6-3	成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	医学部医学科	2月末に成績懇談会を開催し、学部1~3年生の成績不合格者について全体で意見交換会を行っている。
		医学部看護学科	学部の看護学実習科目では、到達目標(知識、技術、態度等)に対応する評価項目を定めた評価表がある。講義科目は筆記試験、レポートで目標に応じて到達度を評価した。大学院ではレポートやプレゼンテーションから到達度を評価した。看護学実習の評価表は、学生による自己評価ののち、臨地実習指導者、実習担当教員による評価を実施し、さらに学生全体の得点状況の不均衡がないか確認し最終決定する。講義科目でも学生の成績を共有し、不均衡が無いよう調整した。
6-8-1	標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	応用生物科学部	共同獣医学科(獣医学課程)では、全国で唯一、3年連続で獣医師国家試験合格率が100%であった。
6-8-2	就職(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	教育学部	卒業時に各講座の卒業論文指導教員、教職実践演習担当教員に対し、ディプロマポリシーと対応開講科目リスト、及び当該学生の各科目成績リストを提示する。その上で、各学生の専門的能力評価を実施し、卒業時のディプロマポリシー各項目が学位取得にふさわしいかの評価を行っている。
6-8-3	卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	連合農学研究科	修了する学生に対し、「修了生アンケート」により、本研究科のカリキュラムの満足度や改善点等を聴取している。令和元年度3月期修了生アンケートにおいて、学位取得に85%の修了生が努力を要したと回答し、93%の修了生が博士号学位の取得に意味があったと回答していることから研究意欲及び学習成果の向上があったと判断する。